

## 第 25 回 長崎都市経営戦略推進会議

平成 25 年 7 月 9 日 (火)

10 : 00 ~ 12 : 00

長崎商工会議所 2F 特別会議室

議 題 等	資 料
1. 議長挨拶	
2. 議題等 <協議事項> (1) 第 7 回長崎サミットについて  (2) その他	
3. 閉会	

○今後のスケジュール

◇推進会議

第 26 回推進会議

7 月 23 日 (火)

10:00~12:00

◇第 7 回長崎サミット

7 月 29 日 (月)

9:30~12:10

第25回推進会議出欠

H25.7.9

氏名	役職	出欠	代理出席
里 隆光	議長	○	
渡邊 昌一	副議長	○	
永井 剛	委員・座長	○	
小林 喜平太	委員・座長	○	
中山 士朗	委員	○	
殿村 育生	委員・座長	○	
前田 克彦	委員	○	
井口 潤一郎	委員	○	
中部 憲一郎	委員	○	
吉澤 俊介	委員	○	
坂井 俊之	委員	○	
平松 喜一朗	委員	○	
篠原 俊一	委員	○	
石丸 利行	委員	×	
小川 完二	委員・副座長	○	
河西 宏	委員	○	
前原 晃昭	委員・座長	○	
山田 浩一朗	委員	○	
白石 幸男	委員・副座長	○	
武藤 剛	委員	○	
小林 秀顕	委員	×	
川口 晴寛	委員・事務局長	○	
須齋 正幸	アドバイザー	○	
調 漸	アドバイザー	×	
嶋野 武志	アドバイザー	×	
山田 伸裕	オブザーバー	×	
高比良 実	オブザーバー	○	
中西 章夫	オブザーバー	○	
村木 昭一郎	座長	○	
西 亮	座長	×	
塚原 修二	座長	×	
鉄川 進	座長	×	
石橋 道康	委員長	○	多比良 純一
長嶋 俊治	事務局次長	○	
矢野 暢之	事務局次長	○	
重松 愛子	事務局員	○	

平成 25 年 7 月 9 日

## 第 7 回長崎サミット(案)

### 1. 日 時

平成 25 年 7 月 29 日(月) 9:30~12:10 ( 160 分 )

### 2. 会 場

ホテルニュー長崎

### 3. 内 容

①経過報告と提議 ( 15 分、推進会議議長)

②トップによる意見交換 125 分

( 進行役 - 推進会議副議長(日本銀行長崎支店長) )

③報道機関質疑応答 ( 20 分 )

#### 報道公開について

県民・市民の皆さんへ、本プロジェクトの活動状況をより幅広く伝えること、そしてトップによる意見交換の時間を拡充させること等を目的に、報道公開する。

(報道機関はサミット開催中、会場に在席する)

#### ※参考

前回は、報告・提議 10 分、意見交換 100 分(報道非公開)、記者会見 40 分。

#### (注)今後のスケジュール等

- 7月 23 日に推進会議を開催し、組成団体および関係団体との調整を踏まえ、内容を詰める。
- 本プロジェクトの活動者の裾野拡大、活動浸透を図ることを目的に、運営の工夫を行う。
  - ・陪席者の拡充(資金支援協議会会員、地域活性化に取り組む市民組織、長崎市以外の地域活性化活動組織等より) 等
- 会場設営の工夫をする。
- 広報の充実を図る。

## 長崎サミットへの提議(案)

### 長崎サミット

上田 恵三	長崎商工会議所会頭	中村 法道	長崎県知事
宮脇 雅俊	長崎経済同友会代表幹事	田上 富久	長崎市長
橋本 州史	長崎県経営者協会会長	片峰 茂	長崎大学学長
武藤 剛	長崎青年会議所理事長		

殿

長崎都市経営戦略推進会議  
議長 里 隆光

本プロジェクトは、2010 年に「みんなでつくろう元気な長崎」をスローガンに、地域経済の衰退に歯止めをかけるべく設定した 2020 年の定量目標を目指して、産学官連携して推進活動に着手した。

活動開始後、旗印とした連携(目標の共有と協働をめざして)は相応に進み、個別テーマも課題解決に向けた動きが着々と進みつつある。また、新幹線西九州ルート諫早・長崎間の着工をはじめとして、数々の大型プロジェクトが具体化するなど、当地域にとってフォローの風となりうる動きが出ている(別紙1)。

一方では、諸経済指標は一部に好転の動きがみられるものの、経済基盤の持続的な底上げという面では未だ十分とはいえず、これからが正念場と言える。今こそ、更に強力な分担と連携を進め、持続的な指標の維持向上を目指すことが求められている。

最近の当地域における経済環境・動向等を十分認識した上で、本プロジェクト第 2 ステージ(経済基盤づくり)の対策を徹底して講じ、2014 年 8 月から計画している第 3 ステージ(成果を示すステージ)へつなげていかなければならない(別紙2)。

こうした認識のもと、以下を提議する。

#### 1. 本日の長崎サミットで確認願う事項

確認をもとに推進会議で企画・推進を行う。

##### (1) 定量目標達成に向けて運営体制を強化する。

###### ① 計数管理の強化

- イ. めざす定量目標として、GDP(県内総生産)に加え、長崎県提唱の県民所得を掲げ、フォローする。
- ロ. 比較的早期に入手可能な指標を選び、それをフォローすることで進捗状況を把握し、対策を徹底する。

###### ② 分担の明確化

- イ. 年 2 回の長崎サミットにおいては、当面する最重要テーマに絞り込み、今後の推進の分担について可能な限り方向性を示してもらうことで、具体的な成果追及のスピード化をはかる。
- ロ. ワーキングチームにおいては、組成メンバーにテーマに直結する団体、関係事業者等に参加要請し、当事者を交えた分担等を明確化し、推進のスピード化をはかる。

##### (2) 主要施策毎の進捗状況と課題、当面の対応方針(別紙 4)

<参考>

- ・この1年間の長崎サミットで提起された主要な事項の進捗と対応状況
- ・主要施策毎のアクションプラン(ワーキングチーム)

参考資料 1

参考資料 2

## 2. 本日の長崎サミットで意見交換願う事項

意見交換の内容にもとづき、推進会議で今後の推進を協議し、活動する。

本日は、現在特に対応を検討し強化すべきテーマを下記の3点抽出した。このテーマを中心に、分担を含めた推進の方向性等について意見交換を願いたい。

- 中小(中堅)企業の新分野進出等の支援(別紙 5-1)
  - ・当地域では、事業者・企業の減少傾向が地域経済衰退の要因となっており、従来から地域経済活性化対策の課題であった。
  - ・国の成長戦略では、中小企業等の革新を掲げ諸施策が打ち出され、当地域では、幸い国が打ち出した成長分野でのポテンシャルは高く、特にエネルギー・環境分野では「ながさき海洋・環境産業拠点特区」に指定された他、日本版 EMEC への指定をめざす等の動きもある。
  - ・こうした状況で、中小(中堅)企業の新分野進出(および創業)等への対策に動く時期であると判断されることより、本テーマを選んだ。
- 夜景観光の充実と対外発信の強化(別紙 5-2)
  - ・長崎市の夜景は新世界三大夜景に指定され、観光客の増加につながっているが、夜景観光にかかる環境整備、認知度向上等、課題が多い。
  - ・九州新幹線西九州ルート開業まで9年、教会群の世界遺産登録へ向けた動き等、当地域では多様な追い風が吹いてきつつある。これらの活用等に積極的に動かなければならない。
  - ・活用等の重要テーマの一つは対外マーケット対策であるが、その具体策を更に構築する必要がある。長崎の世界新三大夜景が注目されている今、対外発信を強化する方策を詰め、対外マーケット対策につなげ、その他の今後へ拡がるテーマへの活用に結びつけたく、意見交換を願うこととした。
- 物流体制の充実・強化(別紙 5-3)
  - ・本プロジェクトの地域経済活性化手法の一つに外貨獲得を掲げ、活動の推進をしてきた。外貨獲得にはヒト・モノの動きを活発化する対策が必要であるが、モノの動きの活発化については本プロジェクトでは議論のみに終わっている状況にある。
  - ・折しも、長崎港の国際コンテナ航路の週3便化実現を機に本件をテーマとして採り上げた。
  - ・モノの動きを論議する際、陸上、海上、航空について総合的に検討を加えるべきであろうが、本日は、まず海上輸送にかかる貨物の集荷を中心に意見交換を願えればと思う。
- その他
  - ・以上の3点のテーマの他に、特に方向性等についてご意見があれば伺いたい。

## 3. 次回「第8回長崎サミット」の日程

平成26年2月3日(月)

## 当地域の経済環境にかかる最近の動向

### 【この 6 ヶ月間(第2ステージ第4ラウンド)の主な前進事例】

- ◇「ながさき海洋・環境産業拠点特区」の指定獲得と認定に向けた協議会活動
- ◇倉庫・宿泊対策など、客船建造体制の支援策の進捗
- ◇国際コンテナ航路の週3便化(増便)実現
- ◇民間金融機関の地域活性化ファンド創設と、産学官連携によるサミット関連事業支援
- ◇インバウンド促進のまちづくり(エリアマネジメント)の推進
- ◇総おもてなし運動の推進・定着(おそうじさるくの開始、観光案内の充実対策の進展等)
- ◇「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録推進の支援活動
- ◇夜景観光の整備進捗
- ◇コンベンション施設整備可能性調査完了を受けた具体的検討進捗
- ◇長崎かんぼこ王国、新商品・揚げかんぼこ「出島揚げ」の開発と「ちゃポリタン」販売増加
- ◇長崎留学生支援コンソーシアム、長崎留学生支援センターの活動展開、法人化準備
- ◇長崎大学の新学部(多文化社会学部)の設置申請(6月)
- ◇活動の広がり

#### ➤ 多様な大型プロジェクトの進展

- ・九州新幹線西九州ルート諫早・長崎間着工
- ・長崎市庁舎建て替え
- ・県庁移転建替えと跡地活用検討(集客拠点施設整備)
- ・出島表門橋架橋、出島復元計画
- ・長崎駅周辺再開発(土地区画整理事業)および JR 長崎  
本線連続立体交差事業
- ・長崎中央部・臨海地域の都市再生計画
- ・長崎 MICE センターの設置検討
- ・長崎市まちぶらプロジェクト

#### ➤ 人口問題(人口減、高齢化進展、こども人口減)等、地方経済が抱える課題膨らむ。

- ・人口(12年10月末)長崎地域の総人口 652千人 前年比 2.6千人、0.4%減  
     高齢化率 25.1% 前年 24.2%  
     こども人口 85千人 前年比 1.2千人、1.3%減
- ・雇用(13年5月) 有効求人倍率(季節調整値) 県 0.71倍 前年同期 0.62倍  
     ハローワーク長崎管内(実数)0.64倍 0.54倍  
     ハローワーク諫早管内(実数)0.77倍 0.74倍

#### ➤ 一部経済指標に好転の動き

- ・ランタンフェスティバル 13年 101万人、前年比 24万人増
- ・GWの人出(県内) 13年 62.4万人、前年比 6.8万人増
- ・日本銀行短観(6月)業況判断 D. I. (全産業)は改善(▲8→2)。

#### ➤ 周辺県内各地域における経済活性化活動

- ・佐世保地域活性化推進協議会・13年7月発足

より一層の分担・連携の必要性と今後の方向

各団体等  
・個別に企画・推進  
・個別に提言等

それぞれ自主的に、特に立ち上がりは積極的に推進  
持続性、組織・運営にも課題  
どちらかと言えば、イベント、単発的

中長期的な基盤づくりが不十分

地域経済(指標)の衰退

取り巻く環境の多様化  
・国際間・地域間・企業間等の競争激化

みんなでつくる  
元氣な長崎

より差別化を強化

- 地域経済の立て直し
- 発想と行動の転換(イノベーション)
- まず外資導入を重点的に

地域、企業を取巻く環境  
一層の急激な変化  
グローバル競争の激化  
マクロ的な情勢変化(例:三重重工の組織再編の影響)に対する情報収集・対応へ  
連携・分担不可欠

連携の強化  
・問題意識の共有  
・情報交換の深化  
・機会あることでのコミュニケーション

同一方向性の確認  
活動(行動)の連携

強力な「実効性」、「効果」、「持続性」の追求  
しっかりとらした中長期的な基盤づくり

施策のスピーディな具体化  
地域経済(指標)の維持・改善

PDCAの実践

さらに強力なPDCAの実践

分担して連携の強化

相応に進み、一部効果も出てきている。

- 主な進捗事例
- ☆新幹線西九州ルート認可・着工推進活動(12年8月着工)
  - ☆人材育成、倉庫・宿泊対策等の空船建造体制の支援策進捗
  - ☆「ながさき海洋・環境産業拠点特区」の指定推進(13年2月指定)
  - ☆地域活性化フェア創設とサミット関連事業支援
  - ☆総おもてなし運動(多言語表示等観光案内充実、おそうじさく等)
  - ☆教会群の世界遺産登録推進の支援活動強化
  - ☆コンベンション施設整備実現に向けた具体的検討の進捗
  - ☆長崎かんぽ王国、長崎おでん開発、揚げかんぽこの開発
  - ☆長崎留學生支援コンソーシアム、長崎留學生支援センターの発足

仕組みづくり  
……必要であれば  
別途、強力な組織作りも

長崎サミットプロジェクト  
(今後の方向)

## 掲げた定量目標と現状の参考指標

<b>基幹製造業</b>			
基幹製造業本体(3社)の生産高 地元受注率10%ポイント引上げ 3社の地元発注額 受注量・額	08年) 5,160億円		5,160億円
<b>観光</b>			
観光消費額	08年) 865億円	12年) 1,154億円 前年比5.2%増	1,300億円
観光客数	08年) 556万人	12年) 595万人 前年比0.1%増	700万人
宿泊者数	08年) 246万人	12年) 259万人 前年比2.3%増	350万人
外国人延べ宿泊者数		12年) 13万人 前年比10.7%増	
コンベンション開催件数		12年) 1,049件 前年比2.6%増	
コンベンション参加者数		12年) 39万人 前年比16.4%増	
国際クルーズ客船寄港数		12年) 72隻 前年比53隻増	
国際クルーズ客船乗客数		12年) 8.1万人 前年比5.5万人増	
主要観光施設入場者数			
夜景観光 稲佐山展望台		11年度) 41万人	
交通機関(JR、空港等利用者)		12年)	
有料道路利用台数 出島道路		12年度) 前年度比2.5%増	
イベント観客数			
ランタンフェスティバル		13年) 101万人 前年比24万人増	
帆船まつり		13年) 20.3万人、前年比1万人減	
長崎くんち		12年) 23万人、前年比2万人減	
<b>水産</b>			
練り製品販売・生産額	07年) 60億円		120億円
長崎かんぼこ王国 会員数			
販売数量			
<b>大学</b>			
学生・教職員消費及び大学支出 学生数3000人、教職員300人増	08年) 587億円		632億円
留学生数		12年度) 1,420人	
派遣			
地域内産出額 * 県内総生産	07年度) 3.9兆円	10年)	
		10年市町民経済計算未発表	

有効求人倍率

県民所得の向上



## 主要施策毎の進捗と課題、当面の対応方針 ○は中心となる分担当当事者

### 《 分野横断的 》

#### 「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録推進

- 進捗状況 ー ・県世界遺産登録推進県民会議の発足と参画  
 ・民間の活動進展(交通関係、金融機関、マスコミ等の応援活動等)  
 ・「ながさきクリスマス」等への参加登録活動支援

課題 ー 指定獲得へのさらなる活動

#### 対応方針(分担等)

- ー ・関係団体一致して推進する。  
 指定後の課題整理 (○長崎県)  
 可能なものは整備に入る(○長崎県)  
 受入体制の整備(世界遺産センター)、(○県、観光連盟)

#### 中小企業の新分野進出支援

進捗状況 ー 新分野進出等の支援ファンド新設、ほか

課題 ー 企業・事業所数の減少、中小企業の新分野進出の支援体制の再構築

#### 対応方針(分担等)

- ー ・新規参入・事業拡大等の民活掘り起こし活動を行う。  
 (○金融機関、商工会議所・金融機関との連携)
- ・特区関連の海洋・エネルギーをはじめとした成長分野での中小企業の事業化・起業促進を含め、新分野進出支援についてWT組成を含め検討する。(○推進会議)

#### 経済基盤強化へのまちづくり(まちなか全体のエリアマネジメント推進)

進捗状況 ー まちなか全体のエリアマネジメント(ランドデザインに沿った着実な推進)の勉強会開催等認識の拡大、市のまちづらプロジェクト推進

課題 ー ・まちづくりの具体的活動  
 ・民活の掘り起こし  
 ・関連組織との協議

#### 対応方針(分担等)

- ー ・まちなか全体のエリアマネジメント(ランドデザインに沿った着実な推進)の強化について、関連の組織(委員会・懇話会等)と早急に協議し、今後の進め方を確認する。  
 (○推進会議)
- ・都市再生整備事業説明会開催(○県、市)

#### 国際都市長崎へ向けた産学官一体での国際交流拡充

進捗状況 ー 長崎日蘭協会の設立(1月)、長崎市・ライデン市の市民友好都市提携、などの交流拡大

課題 ー 国際交流都市長崎の再生に向けた、交流活動の拡充、留学生・市民等の交流の場の拡充による交流人口拡大等経済活性化の推進

#### 対応方針(分担等)

- ー ・出島の復元・活用と日蘭交流体制の強化を進める。(○市、経済団体、県、大学等)
- ・国際交流の広場づくりを行う。(○大学、県、市、経済団体等)
- ・提携大学の拡充推進を進める。(○大学、留学生支援センター)

## 《 基幹製造業 》

総合特区(ながさき海洋・環境産業拠点特区)の認定への協議会活動

進捗状況 ー 行政、造船業、経済団体等による協議会で区域計画の認定に向け協議中

課題 ー 早期認定獲得と、特区を活用した取組の具体化

対応方針(分担等)

ー 「国と地方の協議会」に積極的な協力・支援を行う。

(○県、市、推進会議、関係企業・団体、金融機関)

高付加価値船、大型船舶の建造拡大に向けての環境整備の促進

進捗状況 ー 順次情報提供中(倉庫、宿泊、駐車場等)

国際コンテナ航路の週3便化実現

課題 ー 個別案件毎の具体的進捗

対応方針(分担等)

ー ・情報収集・提供…県、市 (関係企業)

・個別案件への対応…県、市、関係企業

・集荷活動の強化、ポートセールス 13 年度実施(日本海事センターとの連携・協力)

(○長崎港活性化センター・市、業界・経済団体、等)

基幹製造業の事業再編に対応した取組み支援

進捗状況 ー 三菱重工業・日立製作所の発電システム分野の統合新会社 14 年1月発足へ

課題 ー 情報収集、連携協議

対応方針(分担等)

ー ・情報収集および提供を行う。(○県、市、経済団体)

・個別案件への対応を進める。(○県、市、関係団体)

基幹製造業の動きに合わせた事業誘致対策

進捗状況 ー 造船関連県外調達企業と地場企業との提携・部品受注等を推進中

課題 ー ・誘致・提携企業の発掘等情報収集及び誘致・提携等推進、用地・インセンティブ等誘致の条件整備

・建設業等からの新たな事業参入

対応方針(分担等)

ー ・情報収集および誘致につながる活動を行う。(○県、市、等)

・情報提供とサポートを行う。(○経済団体等、大学、金融機関等)

・建設業等からの事業参入を促進する。(○県、経済団体、業界団体)

地場企業の競争力強化への支援

進捗状況 ー 造船関連技術者育成支援事業、12 年度開始。

課題 ー 人材育成、設備投資・雇用維持、県外企業との事業連携等への支援

対応方針(分担等)

ー 支援策の検討・推進を図る。(○県、市、業界団体等)

## 《 観 光 》

総おもてなし運動の徹底推進

進捗状況 ー 長崎地域の総おもてなし運動の進展・ユニバーサルツーリズム等(長崎市観光ネットワーク推進協議会)、アダプトプログラム、おそうじさるく(おもてなし WT)

課題 ー ・おもてなし運動の拡がり不足  
・観光従事者のレベルアップ  
・運動参加団体の拡大(アダプトプログラム、おそうじさるく等)

対応方針(分担等)

- ー ・枠組み作りと啓発を進める。(〇県、長崎県総おもてなし運動推進事務局)
- ・総おもてなし運動の実践・推進をはかる。(〇総おもてなし運動推進事務局)
- ・観光従事者のレベルアップをはかる。(〇各企業、)
- ・参加団体の拡大を進める(〇推進会議、おもてなし WT)
- ・「ながさき・おもてなし表彰」「ながさき・おもてなし協力隊」の事業をすすめる。  
(〇県、おもてなしWT)

MICE(コンベンション)の施設整備と誘致推進

進捗状況 ー 「長崎MICEセンター整備可能性調査」結果を受けた事業の精査・見極め

課題 ー ・施設用地の確保、事業主体・事業者決定など  
・MICE誘致活動の推進

対応方針(分担等)

- ー ・施設整備の推進、用地の確保、事業主体・スキーム等の構築を進める。(〇市)
- ・ファイナンス面から検討する。(〇経済同友会、金融機関、等)
- ・誘致・支援活動を進める。(〇市、経済団体等、コンベンション協会、大学等)
- ・開催支援体制の構築をはかる(サプライヤー育成)。(〇市、WT、経済団体等)

観光資源の磨きと活用(世界新三大夜景の活用・維持拡充など夜景観光推進)

進捗状況 ー ・市が稲佐山ロープウェイ、展望台、レストラン等整備  
・民間企業によるバスツアー実施  
・夜景ウィーク実現への活動展開(全国の高校生に光のプレゼントを！)

課題 ー ・域内外への発信  
・稲佐山以外の視点場整備、民間企業の夜景活用商品開発  
・夜景の維持(斜面地の人口・世帯減等による光の減少歯止めと増加)  
・まちの魅力の「見える化」

対応方針(分担等)

- ー ・域外への発信を強化する。(〇県、市、企業、)
- ・視点場整備を進める。(〇市、県)
- ・夜景観光の商品開発を進める。(〇企業、関連業界等)
- ・夜景維持・充実対策を進める。
  - 公的建物ライトアップ・街灯整備(〇市、県)
  - 民間建物(〇商工会議所、同友会、NPO、経済団体、市、等)
- ・夜景ウィークを実施する。(〇青年3団体、経済団体、)
- ・「まちの魅力の見える化」へシンポジウムを開催する。(〇推進会議、市、コンベンション協会)

j

インバウンド対策推進へのまちづくり

- 進捗状況 ー ・「インバウンド対策の充実にかかる提言」を県庁跡地懇話会へ説明  
 ・WT 再編による体制強化(マーケット対策WT、観光資源の再構築WT)  
 ・関西経済界との連携(大阪商工会議所等との関係強化)  
 ・市のあじさいコールに外国人旅行者専用ダイヤル設置、4か国語外国人個人旅行者向けマップ作成、まちぶらプロジェクト推進
- 課 題 ー ・関西圏等の観光客誘致活動、関西圏経済界等との連携強化、情報発信強化のための体制作り  
 ・クルーズ船観光客の長崎滞在・観光促進の具体的仕掛け、商品開発  
 ・関西圏とのアクセス改善、増強等  
 ・留学生資格外活動の許可要件の緩和対応

対応方針(分担等)

- ー ・2次交通整備含めたまちづくりや観光案内板等の整備推進を行う。(○県、市等)  
 ・言語バリアフリー対応等おもてなし充実やビジネス商品開発を行う。  
 (○関係業界、企業)  
 ・関西圏等のマーケット調査を行う。(○長崎経済研究所、県、市)  
 ・関西圏等の観光客誘致活動を行う。(○県、観光連盟)  
 ・情報発信強化のための体制作りを進める。(○県、観光連盟、市)  
 ・関西圏等との連携強化を進める。(○商工会議所、同友会、青年会議所、県、市)  
 ・関西・長崎間の空路増強(LCC増便等)を進める。(○商工会議所、7団体)

《 水 産 》

水産練り製品の域外展開の推進

- 進捗状況 ー 業界を中心に順調に活動展開、新商品「出島揚げ」も開発
- 課 題 ー 水産練り製品の県外展開の強化・推進、練り製品以外の分野発掘
- 対応方針(分担等)

- ー ・販路拡大に取り組む。(○業界団体、等)  
 ・販路拡大への補助金等支援を行う。(○県、市、等)

練り製品に続く水産業振興にかかる戦略の検討

- 進捗状況 ー 水産人材育成・海洋サイバネティクス事業(長崎大学)進捗等
- 課 題 ー ・水産人材育成の強化  
 ・練り製品以外の水産物の域外展開推進  
 ・養殖事業等の拡充・推進  
 ・消費拡大や水産業の重要性再認識につなげる魚食推進

対応方針(分担等)

- ー ・水産人材の育成を進める。(○大学、県、業界団体等)  
 ・水産品の域外展開を進める。(○関係業界、県、等)  
 ・養殖事業等の推進を図る。(○関係業界、県、市、等)  
 ・魚食の推進をはかる。(○市、県、経済団体等)

《 大 学 》

## 留学生支援センター事業の推進と留学生支援体制の充実

進捗状況 ー 産学官による長崎留学生支援コンソーシアムを2月1日設立、その下に「長崎留学生支援センター」を設置し、活動開始。

課題 ー 長崎留学生支援センター事業の推進と拡大

対応方針(分担等)

- ー ・インターンシップの推進をはかる。(○県経営者協会、経済団体、大学、等)
- ー ・支援センターの事業支援、財政支援をはかる。(○大学、県、市、経済団体、等)
- ー ・国際交流の広場づくりを進める。(○大学、県、市、経済団体等)
- ー ・提携大学の拡充推進をはかる。(○大学、)

## 産学官連携の推進

進捗状況 ー 長崎県中小企業団体中央会と連携した取り組みを協議

課題 ー 産学コーディネーターの育成・確保と活用

対応方針(分担等)

- ー ・産学コーディネーターの育成・確保をはかる。(○業界団体等)
- ー ・産学コーディネーターの活用をはかる。(○企業、大学)
- ー ・新規事業参入の可能性研究(技術面)を進める。(○大学、企業)

## 長崎大学の新学部設置の推進支援

進捗状況 ー グローバル人材育成に向けた新学部(多文化社会学部)14年度開設へ申請書提出  
新学部設置の地域貢献・期待等に関するサミット枠での要望書提出(5月)

課題 ー 新学部(認可申請、13年6月)の早期認可獲得および新学部の広報等

対応方針(分担等)

- ー ・新学部認可への要望活動を行う。(○経済団体、県、市)
- ー ・新学部の広報支援をはかる。(○経済団体、等)

## 国際都市長崎へ向けた産学官一体での活動

課題 ー 国際交流都市長崎の再生に向けた、留学生・市民等の交流の場の拡充

対応方針(分担等)

- ー ・国際交流の広場づくりを進める。(○大学、県、市、経済団体等)
- ー ・提携大学の拡充推進をはかる。(○大学)

## 《 その他 》

### 人口減少下での労働力人口の確保による生産活動維持

課題 ー 地域経済における少子高齢化・生産年齢人口の減少傾向に対応した、高齢者および女性の就業率引き上げ(全国的に低い就業割合)

対応方針(分担等)

- ー 推進会議として今後、検討をすすめる。(○推進会議)

## 《 推進体制 》

活動の層の拡がり

進捗状況 ー ・商工会議所青年部で「コンベンション、夜景観光」に関する提言策定。夜景観光の推

進にかかる事業実施。

課題 ー 若手の活動参加の促進

対応方針(分担等)

- ー ・JC、商工会議所青年部、同女性会、青年協会等との分担連携をすすめる。(○青年三団体)
- ー ・商工会議所青年部の「コンベンション、夜景観光」の提言の実現をはかる。(○会議所青年部)

活動の地域の拡がり

進捗状況 ー 佐世保地区への連携・支援、佐世保地域活性化推進協議会の発足(13年7月)  
その他地域への呼びかけ

課題 ー 具体的な連携および支援活動の展開、情報収集・発信

対応方針(分担等)

- ー ・情報収集・発信を行う。(○推進会議、経済団体、県等)
- ー ・連携支援活動を行う。(○推進会議、経済団体、県等)

中央の賢人アドバイザー組織作り

進捗状況 ー 中央でご活躍の長崎ゆかりの賢人リストアップ

課題 ー 具体的なメンバー選定と組織づくり

対応方針(分担等)

- ー 人選・依頼および設置・運営をすすめる。(○推進会議)

資金支援協議会の拡充

進捗状況 ー 12年10月、会員45社で発足、予算規模2千万円

課題 ー 会員の増強と会費拡大による推進会議への支援強化

対応方針(分担等)

- ー 会員増強を進める。(○推進会議、経済団体)  
関係企業、一般企業への働きかけやインターネットも使い会員をひろげる。  
会員の活動参加を推進する。

**【中小(中堅)企業の新分野進出等の支援】**

## 〈現状〉

国の新たな成長戦略において中小企業等の革新を掲げられ、開業率引き上げ、成長分野への進出支援、海外展開の促進、地域資源の活用・創業支援、国内外フロンティアへの取組支援等を打ち出している。当地においては、国が打ち出した成長分野である健康長寿、エネルギー・環境、地域資源(農林水産・加工品、外国人観光客誘致)等のポテンシャルは高く、特にエネルギー・環境分野では、ながさき海洋・環境産業拠点特区に指定されたほか、日本版 EMEC への指定を目指す動きなどもあり、中小(中堅)企業新分野進出(および創業)等の促進に動く好機である。

- ・ながさき海洋・環境産業拠点特区の認定へ向けた具体策の詰め
- ・造船業の高付加価値船等への建造船種特化、生産の効率化進展
- ・造船業が培ってきた技術の海洋産業分野への展開
- ・海洋産業の拠点としての可能性(造船業集積、海洋ポテンシャル、日本版 EMEC 推進)
- ・マーケット対策の脆弱さ・遅れ(営業力、情報収集・活用)

## 〈課題〉

## ○造船関連

- ・高付加価値船建造に対応した技術者の育成
- ・省エネ・環境対策に対応した技術者の育成

## ○海洋・環境エネルギー関連

- ・新分野の技術に関する情報収集および研究
- ・新分野参入のための体制づくり

## ○市場・販路の開拓・拡大

- ・営業力・情報収集力等、マーケティング力の強化および支援

## 〈対応方針(分担等)〉

## 【夜景観光の充実と対外発信の強化(環境整備と観光誘致活動強化)】

## 〈現状〉

かつて1千万ドルの夜景といわれ、昨年は世界新三大夜景に認定された長崎の夜景は、宿泊観光が減少し日帰り観光のウエイトが増していた長崎にとって、宿泊観光拡大につながる観光長崎の追い風となっている。稲佐山の展望台は大幅な観光客の増加をみており、宿泊観光客数も前年を上回る状況にある。交通、宿泊等観光関連事業者の夜景関連企画・商品化等も始まっており、動きはみられる。

もともと、世界新三大夜景とはいえ認知度は不十分で、長崎経済研究所が行った大都市圏での認知状況調査(13年5月実施、対象は過去1年に国内旅行にいった人)でも、「長崎の夜景・稲佐山」は首都圏57%、関西圏56%にとどまった。

## ○対応状況

市による視点場整備、稲佐山山頂駐車場の使用方法改善中。  
 コンベンション協会の夜景ナビゲーター育成、夜景さるく開始  
 交通事業者によるバスツアー、タクシーでの対応企画実施中  
 市のライトアップ施設24カ所に拡大

## 〈課題〉

## ○夜景観光客の受け入れ態勢の強化・充実

せっかくの世界新三大夜景も、稲佐山展望台を除けば展望所・視点場の整備をはじめアクセスの確保、情報提供など観光客に楽しんでもらうための態勢整備が遅れており、大きな機会損失となっている。

もともと、視点場の整備、アクセス・駐車場等の整備には時間・整備費に大きなハードルがあることから、長崎の夜景の特徴を生かしたソフト的な対応策を早急に具体化していく必要がある。

- ・稲佐山展望台の駐車場、ロープウェイ、登山道の渋滞対策
- ・港から見上げる夜景を楽しんでもらう視点場づくり
- ・ホテル・旅館等の夜景観光客の受け入れ態勢づくり

## ○夜景の維持・拡充対策の強化

夜景を形成するオフィス・工場、家庭、街灯等の明かりは、人口減少や事業所減少のなかで、とくに山肌の建物を中心に減少傾向にあり、夜景の魅力が低下していくことになる。明かりをいかに維持し、さらに充実させていくかは非常に大きな課題である。

世界新三大夜景を形づくっている地域の企業・市民にその夜景を守り育てていくことが地域にとって必要であることを認識してもらうことが重要である。

…「全国の高校生に光のプレゼントを」実施

## 〈対応方針(分担等)〉



## 【対外発信の強化(環境整備と観光誘致活動強化)】

### 〈現状〉

○長崎の主要マーケット関西圏での知名度が低い「長崎」

観光連盟が調査した関西圏での認知状況をみると、「長崎くんち」5割、「ランタンフェスティバル」が3割、「長崎さるく」は1割しか認知されていなかった。

長崎経済研究所が行った大都市圏での認知状況調査(13年5月実施、対象は過去1年に国内旅行にいった人)でも、「長崎くんち」44%、「ランタンフェスティバル」27%にとどまった。

○観光情報はいろいろな主体などから、またテーマごとに発信されているが、効果的ではないことがうかがえる。

### 〈課題〉

○効果的情報発信や商品開発との連動性の面で重要な観光情報の一元化ができていないこと

県内のみならず同一地域でも集約されていないため、観光客や取材などの問い合わせをワンストップで受けられない。

- ・旬な食、観光船入港情報、県内・市内各地の催し情報や国体情報の一元化
- ・長崎さるく、浪漫ながさき、あつ!とながさき、長崎ノ夜景、ながさき旅ネット、各自治体 HP の一元化

○テーマを絞り、投下地区やターゲットを明確化し、ボリュームを一定に保つためのキャンペーンの一元化ができていないこと

※情報発信やプロモーションは観光連盟に集約し各エリアは地域磨きの役割分担ができないか

- ・観光連盟調査では関西圏でランタン7割、くんち5割、さるく9割が認知されていない
- ・HTBのように4月の長崎はA、B、Cとイベントがあるというキャンペーン
- ・光などをキーワードにランタン・長崎の夜景・HTBなどで統一したキャンペーン
- ・ワンソース・マルチユースで素材をマスメディア、ユーチューブなどのネット、国際観光船に寄贈するDVDなど複数媒体で活用

参考:ユーチューブでの「くまモン」、ソニー制作の「軍艦島」の露出

○OPRポイント、マーケティングの場としてのアンテナショップがないこと

- ・投資する価値があり、長崎は数少ないアンテナショップのない県である。

○お越しになられた方への情報発信としてのwifi整備の遅れ

- ※個人旅行者の増加に対応
- ※都市基盤整備、インフラとして重要

### 〈対応方針(分担等)〉

## 【物流体制の充実・強化(特に対外向け物流集荷拡充)】

## 〈現状〉

長崎港は、現状では近隣他港と比べ競争力が非常に弱く、長崎県の国際貨物の大半(輸出の約97%、輸入の約78%)を、博多港や伊万里港など県外の港湾に奪われている。また、それと同時に、長崎県以外貨物を長崎港では殆ど扱っていない(県港湾課、平成23年度、シームレス物流調査)。

背景には、製造業が少なく、県内の国際貨物の量が少ないこと、便数・航路が少なくリードタイムも長いこと、近隣他港に比べ海上運賃・陸送費・保管・取扱料等々のトータルコストが高いこと、港湾設備の狭隘さ・アクセスの悪さなどがある。このため、長崎港から輸出入をしたいという企業ニーズに応えられない状況にある。

- ・長崎港のコンテナ貨物の取扱量全国・九州で最低レベル。

- 5,963TEU(平成23年、全国53位、1航路週1便)

- ピークは10,158TEU(平成15年、客船建造時、1航路週2便)

- ・輸入貨物と輸出貨物の割合 87%対13%

- ・港湾荷役機器の老朽化(作業効率の低下)

- ・県内荷主の長崎港利用率 輸入22%、輸出3% 他港利用が圧倒的に多い。

しかし、本年6月から客船建造開始に合わせ、国際コンテナ航路の週3便化が実現し、サービスの向上が図れることとなった。

## 〈課題〉

長崎地域では輸入貨物があっても輸出貨物が少なく、それが過去に減便につながった経緯がある。今回も、客船建造にかかる資機材、艀装品等の輸入が期待されるが、輸出貨物の確保については未知数であり、今後、航路を維持し更に増便して利便性・サービスを一層高めるという好循環を目指すには、輸出貨物の確保が不可欠となっている。航路を維持していくうえで最大の課題となる。

- ・コンテナ週3便の定着・維持

- ・リードタイムの圧縮

- ・輸出入貨物のインバランスの解消 輸出貨物の開発

- ・港湾荷役効率化(老朽化機器の早期更新)

- ・荷主企業に対する長崎港・コンテナ貨物助成制度等の認知度向上

- ・客船建造関連貨物の誘致

## 〈対応方針(分担等)〉

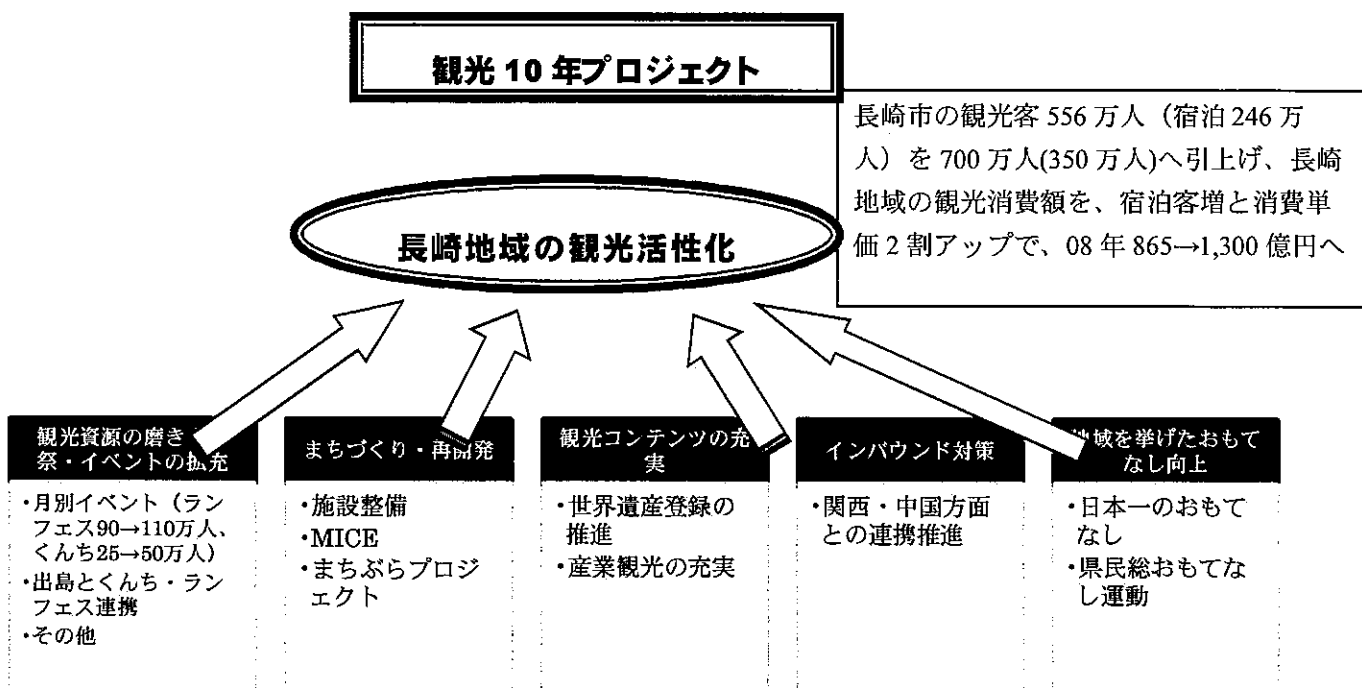
- ・集荷活動強化による県内貨物の獲得、さらに県外貨物の獲得

- 博多、伊万里、等の県外港に流出している輸出貨物の長崎港利用推進

- ・長崎港ポートセールスの強化・充実

- 週3便化や助成制度等の長崎港の利便性向上アピールへポートセールス・ポートセミナー実施

観光分野の参考



長崎市の観光事業の見込み

光客数

2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	万人 15年/11年 伸び率 6.0%増を 目指す	2016年
594.5	580	600	620	630		650

因

都市観光の振興							
(1) まちあるき 関連	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	15/11年 伸び率	2016年
①ながさきさるく(通・学)	2.7	4.8	5	5.3	5.5	103.7%	さるく10周年
(2) 夜景観光、宿泊滞在型観光 関連	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度		
②稲佐山展望台利用者	41.3	50	50	50	50	21.1%	
(参考) ロープウェイ(②に実質包含)	15	15.5	15	15	15	0.0%	
③やすらぎ伊王島利用者	20.2	18.1	25	30	30	48.5%	日帰り含む
④ランタンフェスティバル観覧者	77	94	92	90	92	19.5%	
小計	138.5	162.1	167	170	172	24.2%	
(3) 主要観光施設、イベント 関連	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年		
⑤グラバー園	96.9	93.4	93.4	96.4	98.4	1.5%	
⑥出島	39.5	39.4	44	46	50	26.6%	
⑦軍艦島(端島見学施設)	9.3	9.4	10	10	10	7.5%	
⑧亀山社中記念館	17.1	12.7	12.7	12.7	12.7	-25.7%	
⑨長崎帆船まつり(11年は震災のため、12年を基礎とする)	4.6	21.3	18	19	20	-6.1%	
小計	184.1	176.2	178.1	184.1	191.1	3.8%	
MICEの振興	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年		
⑩MICE参加者数	33.7	37	38	39	40	18.7%	
計	359	380.1	388.1	398.4	408.6	13.8%	
その他、期待される要素							
(1) 世界遺産登録(教会群)による「新たな観光素材」の誕生(13年度)							
(2) 出島表門橋架橋(16年度)							
(3) 長崎しおかぜ総文祭開催(13年度)、長崎がんばらんば国体・長崎がんばらんば大会開催(14年度)							